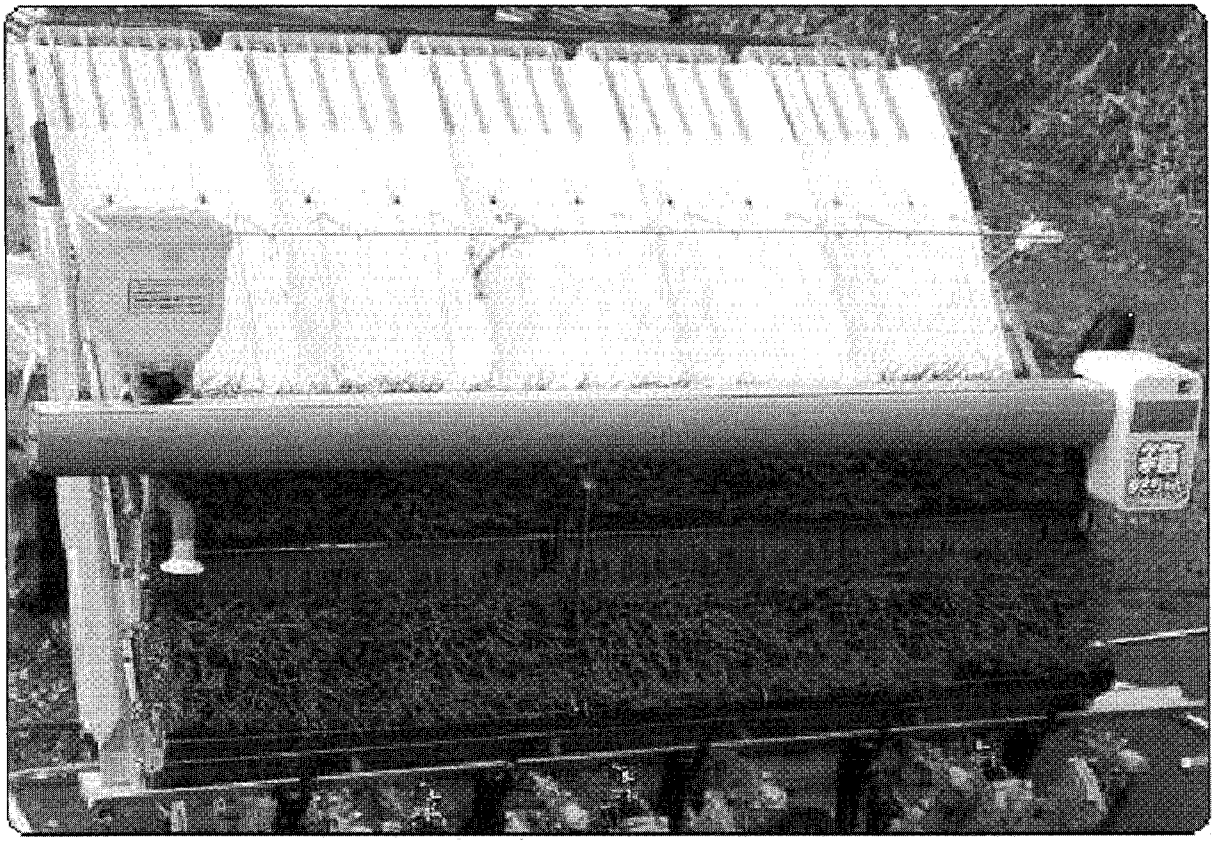
育苗箱施用剤散布機

箱まきちゃん

HSY50・HSY60・HSY80

取扱説明書



安全宣言

安全はクボタの願い

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

このたびは、クボタ育苗箱施用剤散布機『箱まきちゃん』をお買い上げ頂きありがとうございました。

はじめに

この取扱説明書は本製品の正しい取扱方法、簡単な点検、手入れ方法について説明しています。ご使用前に、この取扱説明書をよくお読み頂き、製品の性能を正しく発揮し、かつ安全で快適な作業をしてください。また次の事項にも御注意ください。

- ●お読みになった後も身近な所に保管し、いつでも読めるようにしてください。
- ●この製品は、品質や性能向上あるいは安全のために使用部品を変更する事があります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が、機械と一致しない場合がありますので、あらかじめ御了承ください。

尚、この取扱説明書は、育苗箱施用剤散布機に限定して説明していますので、必ず田植機本体の取扱説明書もよく読んでください。更に本製品は田植えと同時に殺菌、殺虫剤を散布する機械ですから、特に下記事項に気をつけてご使用くださいますようお願い致します。

- ●育苗箱施用剤を田植えと同時に散布する防除は、従来の苗箱に散布する防除法と異なります。最寄りの農業改良普及所などの指導機関の方々、或いは、販売店・ＪＡ農協・クボタ機械サービス（株）などとご相談の上、作業を開始してください。
- ●田植機及び本製品の取扱いは、各々の取扱説明書に従い安全で確実な作業をしてください。
- ●本製品のサービスに関するご用命時は、田植機の型式・機番も併せてお知らせ願います。

4F511-9481-2

安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた ⚠ の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、⚠ 表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

⚠ 危険	：注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	：注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	：注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	：注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	：その他、使用上役立つ補足説明を示します。

サービスと保証の規定について

サービスと保証の規定は、田植機の取扱説明書を参照してください。

重要

※改造した場合や、使用目的が異なる場合は、保証の対象外となりますのでご注意ください。

⚠安全に作業するために

本機をご使用になる前に、必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも本文の中で ⚠ 危険 ・⚠ 警告 ・⚠ 注意 ・ 重要 ・ 補足 としてそのつど取り上げています。

1. 育苗箱施用剤の取扱について

(1) 使用する育苗箱施用剤のラベルをよく読み、使用方法、使用上の注意をよく知っておいてください。
重要 散布量をまちがえると、薬害が生じるおそれがあります。

(2) 育苗箱施用剤は安全な場所に保管し、運搬するときは、袋が破れないように気を付けてください。

(3) 使用済み育苗箱施用剤の袋は害のないように処理してください。

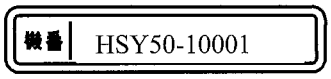
(4) 育苗箱施用剤の取扱には十分注意し、万一目や口に入ったときは、直ぐに水で洗い流してください。
体調に異常を感じたら直ちに医師の診断を受けてください。

(5) ホッパに残った育苗箱施用剤は、きれいに取り去り、元の容器または、袋に入れて幼児の手の届かない所に保管してください。

2. 表示ラベルと貼付け位置

①品番 4F401－9386△
品名 ラベル(ハサマレチュウイ)

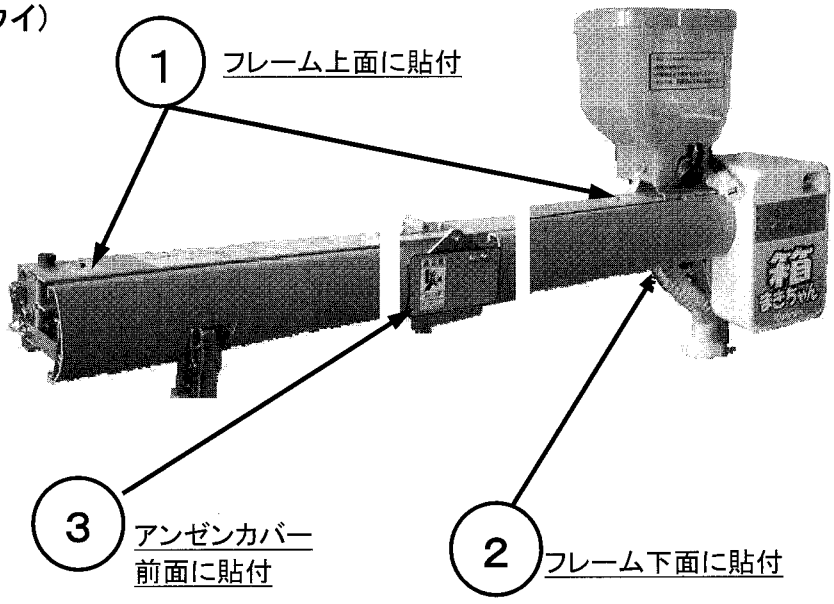
②品番 4F511－9489△
品名 ラベル(キバン)



(本ラベルはHSY50 用です)

③品番 4F811－9325△
品名 ラベル(ハサマレ)

(本ﾗﾍﾞﾙは HSY80 専用です)



3. ⚠ 表示ラベルの手入れ

(1) ラベルはいつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もし、ラベルが汚れている場合は石鹸水で洗い、やわらかい布で拭いてください。

(2) 破損や紛失したラベルは製品購入先に注文し、新しいラベルに貼り替えてください。

(3) ラベルが貼り付けされている部品を新部品と交換するときはラベルも同時に交換してください。

(4) 新しいラベルを貼る場合は貼り付け面の汚れを完全に拭取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。

目次

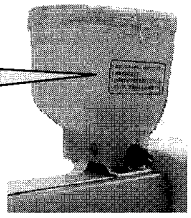
『項目』	ページ
☆育苗箱施用剤を使用する上での注意点・・・・・・	4
☆育苗箱施用剤散布機『箱まきちゃん』の特長・・・	6
☆採用型式と主要諸元・・・・・・・・・・・・・・・	6
☆各部の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
☆作業前の準備Ⅰ（基本動作の確認）・・・・・・・・	8
☆作業前の準備Ⅱ（散布量の調整）・・・・・・・・・	9
☆散布（田植同時）作業の手順・・・・・・・・・・・	１０
☆植付部の左右バランスの点検・調整要領・・・・・	１１
☆８条の『苗のせ台折り畳み』時の作業手順・・・・	１２
☆不調と処置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	１４
☆定期点検項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・	１５
☆主な消耗部品の一覧表・・・・・・・・・・・・・・	１６

育苗箱施用剤を使用する上での注意点

重 要　取扱いを間違えると薬害にもつながりますので充分理解してください。

1．育苗箱施用剤の選定

1）育苗箱施用剤に限定して使用してください。
”絶対に除草剤を誤用しないこと”
除草剤を誤用すると苗枯れの原因になります。



2）田植えと同時に散布できる育苗箱施用剤の中でも、
圃場条件（ガスが発生した田や、漏水田、黒墨土壌砂壌土の水田など）によっては使用できない育苗箱施用剤があるので、御注意ください。

3）育苗箱施用剤の選定にあたっては、圃場や気象の条件が地域によって適正が異なりますので最寄りの指導機関に相談頂くか、都道府県の指導方針に従ってください。

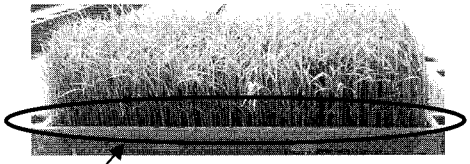
4）箱まきちゃんでの散布に適した育苗箱施用剤を御使用ください。

「適合性の基準」硬く、崩れにくく、吸湿しにくい育苗箱施用剤

2．一般的な注意事項（苗・圃場の設定など）

1）健苗を使用し、軟弱苗などは避けてください。
2）田面を均平に整地し、田面が水面上に出ている所を無くしてください。
3）圃場表面は硬くなり過ぎないようにしてください。
（泥を指でかいてみて跡が少しふさがる程度が適当です）
4）浮き苗、浅植えにならないように適正な植付け深さを守ってください。
5）処理苗を水田に移植した後は、そのまま湛水状態（湛水深３～５ｃｍ）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理してください。
また、水を落とさないよう漏水に注意し、掛け流しは避けてください。

6）稲苗の葉が濡れていると、育苗箱施用剤が付着し薬害を生じる場合があるので、散布直前のかん水は避けてください。
もし苗が乾いた場合には、苗の根元に水を掛けてください。



植付前に苗に水を掛ける場合は、苗の根元に掛けて、葉はできるだけ濡らさないようにする。

7）残り苗を圃場に残す場合は、育苗箱施用剤を散布していない苗があると、病気や害虫発生の原因になる可能性があります。
圃場に苗を入れる時は育苗箱施用剤を先に散布してください。

3．散布後の処理

適正な育苗箱施用剤を使用して適正に散布しても、その後の管理によっては薬害が出る可能性があります。育苗箱施用剤の袋に記載されている水田の管理事項は必ずお守りください。

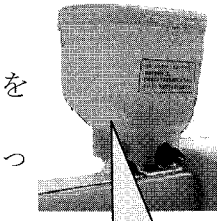
4．植付部のバランスに関する注意事項

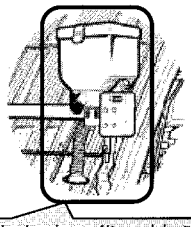
箱まきちゃんを装着すると、植付部のバランスが少し右下がりになる場合があります。
装着後は、Ｐ１１を参照してバランスの点検・調整を確認してください。

5．散布機の重要取扱い事項

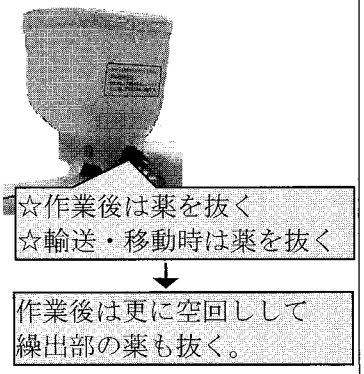
操作要領の各ページの手順、注意事項をよく読み安全作業を心がけてください。
特に次の項目は大きなトラブルにつながりますので、充分注意をしてください。

1）ポッパ内、散布部の水洗いは避けてください。
防水性重視の仕様にはしていますが、直接、勢いよく水を掛けるのは避けてください。
田植機を洗車する場合は、右図部をビニール袋などで被ってください。

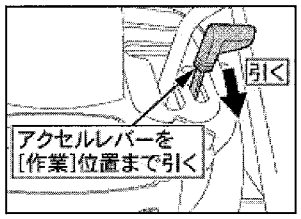




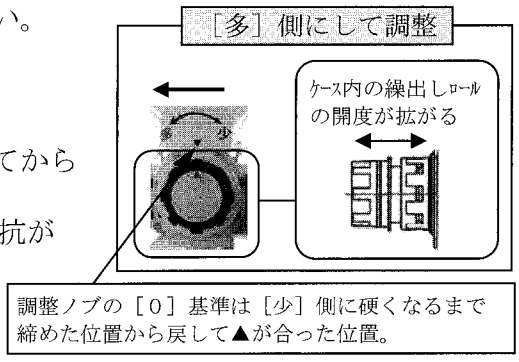
2）育苗箱施用剤の補給／排出に関する注意
☆補給前には必ずホッパの排出プラグを止めてください。
☆補給後はホッパのフタを確実に閉めてください。
☆作業終了後は、育苗箱施用剤の固着を予防するため、次の手順で、繰出部まで育苗箱施用剤を確実に排出してください。
①ポッパ内の育苗箱施用剤を排出口から抜く。
②散布機を少し空回しして繰出部の育苗箱施用剤を抜く。
☆ホッパに育苗箱施用剤を入れた状態で路上走行しないでください。
短距離の移動でもホッパ内の育苗箱施用剤は抜いた方が安心です。
※振動で育苗箱施用剤が圧縮されたり、粉化して、詰りや散布不良の原因となる事があります。



3）エンジンの充電能力に関する注意
箱まきちゃんを使用するとバッテリが消耗しやすいので次の取扱いを守ってください。
①アクセル付き田植機の場合は、アクセルを「作業」の範囲(中速以上)に設定してください。
②施肥仕様の場合は、枕地で苗や肥料の補給などで停止する時は、植付部を上げてください。
（植付部を上げるとブロアが停止し電気消費が少なくなります）
③点検時にはバッテリの容量低下に注意してください。



4）計量作業に関する注意
ノブを「多」側へ回す方向で調量してください。
量を少なくする場合も、一度多めに［少］側に戻してから再度、［多］方向に回して調量する。
【注意】締め込み過ぎると散布機の横スライド時に抵抗が増え非常停止が掛かる可能性があります。



5）雨天時の注意
雨天事は、濡れた葉に育苗箱施用剤が付着し床土に散布できない場合がありますので散布状態を確認し、雨が強く付着が多い場合は使用を中止してください。
また育苗箱施用剤が濡れると散布不良の原因となります。補給や排出時にホッパ内や育苗箱施用剤を濡らさないよう注意してください。

6）非常停止制御について（ＨＳＹ50・60・80のみ）
散布機のモータやセンサの動作に異常が生じた場合は、警報を知らせて非常停止が働く制御となっています。不調と処置のページ（Ｐ１４）を良くお読みください。
※チェーンの張りなどＰ１５の内容を定期点検すれば、非常停止しにくくなります。

7）輸送時の注意
育苗箱施用剤は全て取り出しホッパのフタを確実に締めてください。
また散布機の各部品へのロープ掛けは避けてください。損傷の原因となります。

育苗箱施用剤散布機『箱まきちゃん』の特長

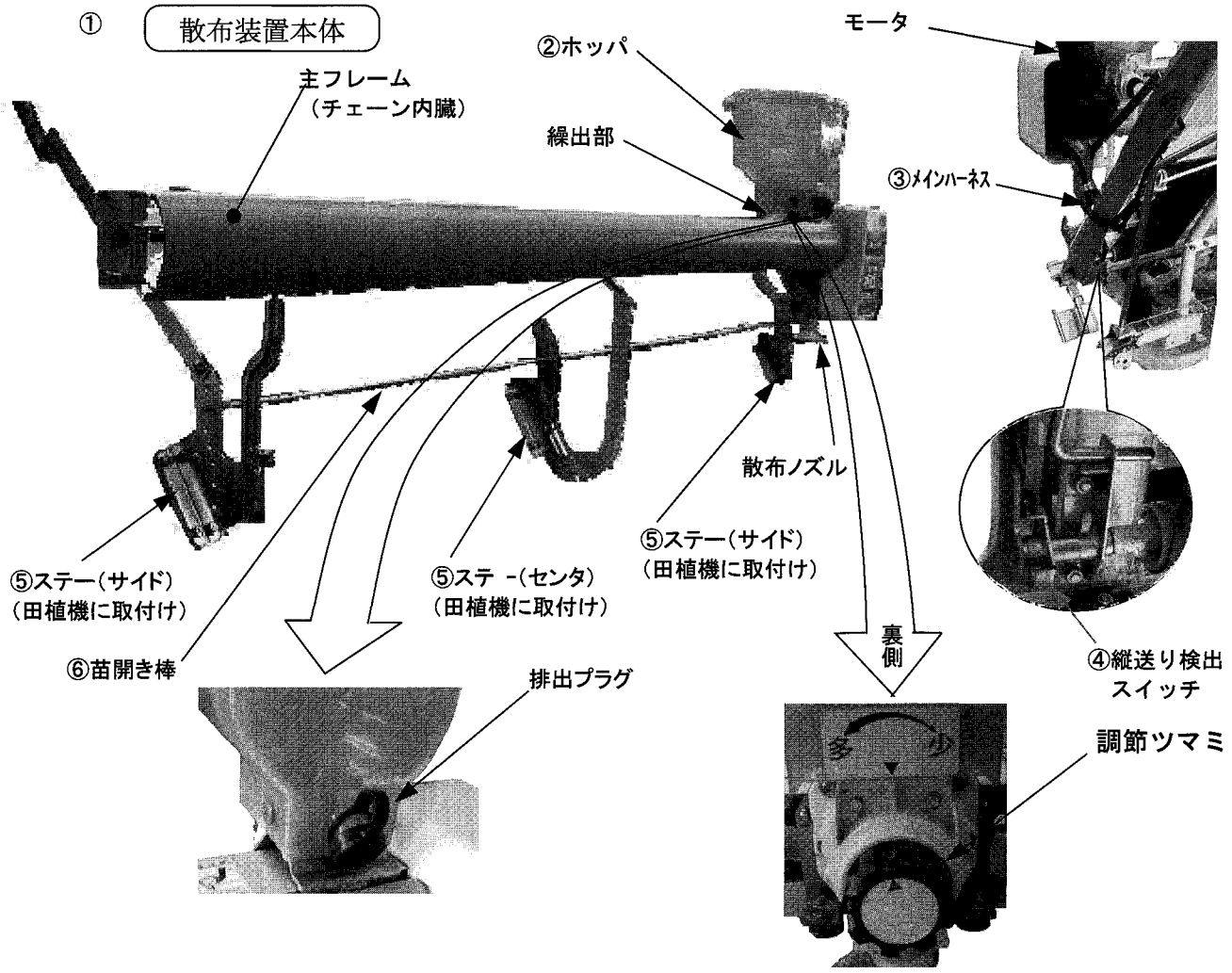
1）田植えと同時に苗に散布できるので、忙しい農繁期の省力化がはかれます。
2）大容量ホッパで能率良く作業できます。作業後の残量排出も楽に出来ます。
3）高精度の散布であり、また実際に使う苗にだけ散布するので、育苗箱施用剤の使用量を最低限に出来て経済的です。
4）繰出し量が調整式ですから、幅広い育苗箱施用剤に適応出来ます。

採用型式と主要諸元

条　　数	型　式　名	適　応　機　種（田　植　機）
5条	HSY50	NSU50，NSU55
6条	HSY60	NSU60，NSU65，NSU67
8条	HSY80	NSU87
※　C仕様は省く		

	5条	6条	8条
育苗箱施用剤の種類	水稲育苗箱施用剤		
散布方法	横スライド散布方式（縦送り連動）		
繰出し方式	溝付きロール方式		
繰出し調整方式	ロール横幅スライド式		
動　　力	バッテリ電源によるモータ駆動		
ホッパ容量	3.5ℓ		
各条停止	切り替えスイッチ方式		
全高X縦幅（mm）	610　X　270		
横　　幅（mm）	1760	2060	2685
質　　量（kg）	12	13	17

各部の名称



●各装置の名称と働き

	名　　称	装置の構成と働き
①	散布装置本体	「繰出部」「散布ノズル」「駆動モータ・チェーン」「主フレーム」等をアッセンブリしています。 「繰出部」の前後面に「調節ツマミ」と「排出プラグ」があります。
②	ホッパ	育苗箱施用剤を補給する容器です。3.5ℓ入ります。
③	メインハーネス	散布装置を田植機本体と接続します。
④	縦送り検出スイッチ	苗のせ台の縦送りベルトの回転を検出します。
⑤	取付ステー	散布機本体を苗載台に取付けるステーです。
⑥	苗開き棒	散布時に苗を上下に開き育苗箱施用剤を床土に散布するための棒です。

●付属品

1）計量カップ……散布量の確認時に使います。

作業前の準備Ⅰ（基本動作の確認）

1．田植機へ『箱まきちゃん』を組付ける。

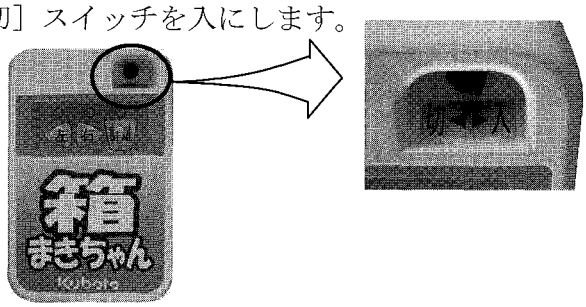
取付要領書を参照して取付けてください。

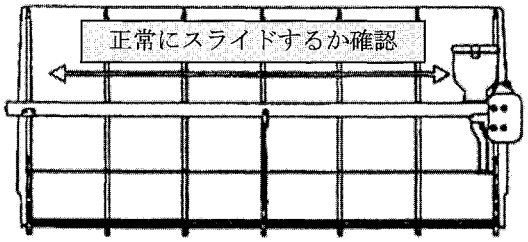
2．散布機のスライド動作を確認する。

「手動操作」にて、基本動作が正常か確認します。

1） 田植機のキースイッチをＯＮにします。

2） ［入／切］スイッチを入にします。

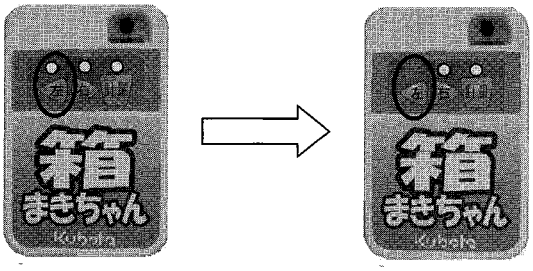




3） 下記操作にてスライド動作を確認します。

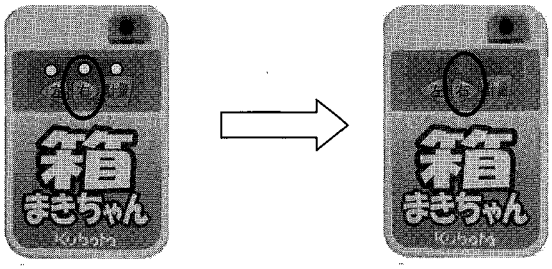
● ［左スライド動作］を確認するには・・・・・・・・・

［左］ボタンを押すと［左］ボタン上のランプが点灯し、左スライド動作を開始します。
左端に来ると自動的に停止し、ランプが消灯します。



● ［右スライド動作］を確認するには・・・・・・・・・

［右］ボタンを押すと［右］ボタン上のランプが点灯し、右スライド動作を開始します。
右端に来ると自動的に停止し、ランプが消灯します。



●ホッパを任意の位置で停止させるには・・・・・・・・・

［右］［左］ボタンにてスライド動作を開始し、スライド途中に［右］［左］ボタンを押すとランプが消灯し一時停止します。

※再び［右］［左］ボタンを押すとスライドを開始します。

補足

「手動操作」によるスライド動作は、間欠スライド動作をしません。
間欠スライド動作は、田植機本体の植付部との連動動作時のみ作動します。

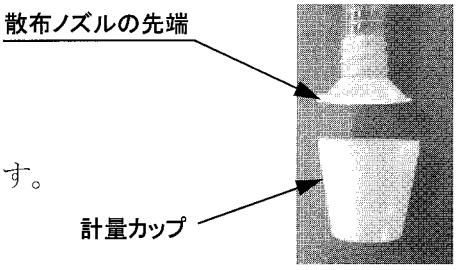
作業前の準備Ⅱ（散布量の調整）

重要

☆計量時は、安全のためにエンジンを止めて作業してください。
☆適正な散布量は、育苗箱施用剤の袋に基準値が記載されています。
※50ｇ／「苗１箱」が主流です。育苗箱施用剤に「苗１箱」分の計量箱が付いている場合もあります。
☆繰出量の設定は育苗箱施用剤の種類により大幅に変わります。使用前には必ず計量を行い、適正な繰出量を設定してください。

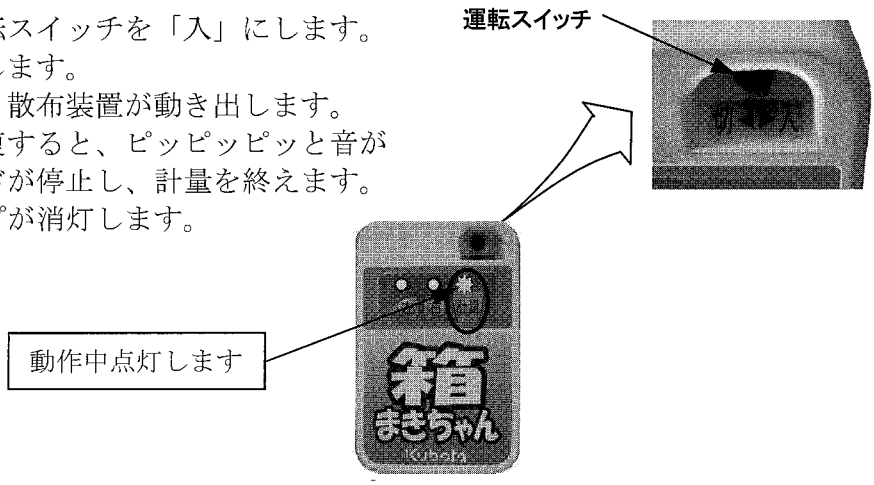
１．計量の準備をする。

１）付属の計量カップを散布ノズルの先端に取付けます。
※ホース口とカップの切欠きを合わせて差し込んでからカップをねじり、抜け止めをします。
２）ホッパのフタを明けて、育苗箱施用剤を入れフタを閉じます。
３）田植機のキースイッチをＯＮにします。



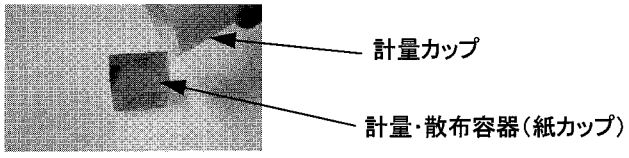
２．計量を開始する。

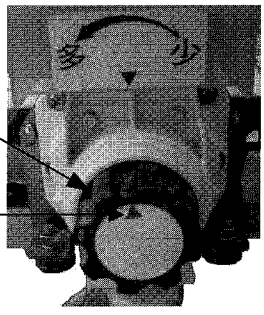
１）セイギョカバー正面の運転スイッチを「入」にします。
２）『計量』ボタンを一度押します。
①計量ランプが点滅して、散布装置が動き出します。
②散布装置が３条分１往復すると、ピッピッピッと音が鳴って自動的にスライドが停止し、計量を終えます。
それと同時に計量ランプが消灯します。



３．散布量の検証と調節の方法

１）計量カップを外し、溜まっている量が適正か検証してください。
※育苗箱施用剤に付属されている計量箱に移して検証するか、重さを測定してください。
２）散布量を変更する時は、繰出部の調節ツマミをラベルの［多］［少］を参照して回します。
※調節ツマミを１回転すると、散布量が測定時から約２０％変わります。





調整ノブの［０］基準は、［少］側に硬くなるまで締めた位置から戻してラベルの▲と合った位置。

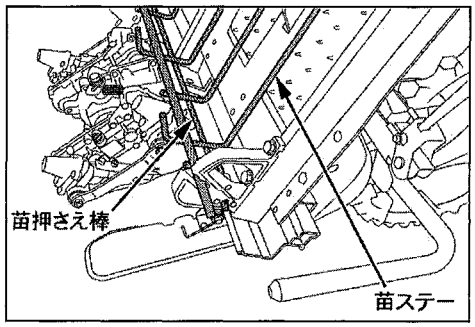
散布（田植同時）作業の手順

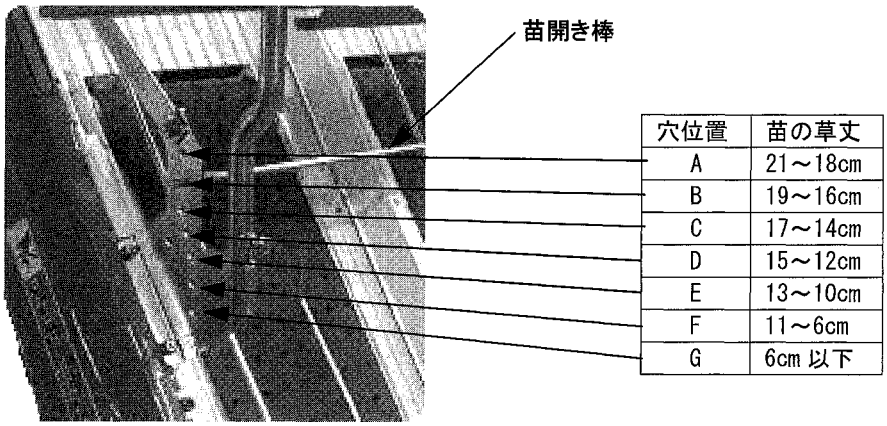
1．苗のせ台に苗を補給します。

1）苗の長さ（床土から上の長さ）にあわせて、苗開き棒の位置を調整します。

重要 ☆下図の位置は、あくまで参考値です。
散布口の下の床土が見えるくらい開いて苗を押え過ぎない位置が基準です。

☆併せて苗ステーと苗のせ台下側の苗押え棒も適正な押え状態か確認してください。
（田植機本体の取扱説明書参照）



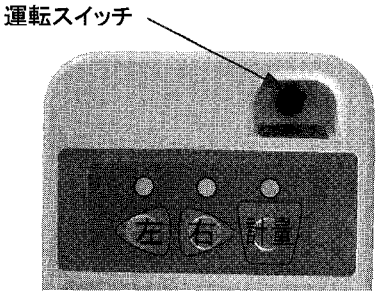


穴位置	苗の草丈
A	21～18cm
B	19～16cm
C	17～14cm
D	15～12cm
E	13～10cm
F	11～6cm
G	6cm 以下

2）苗を全条補給します。

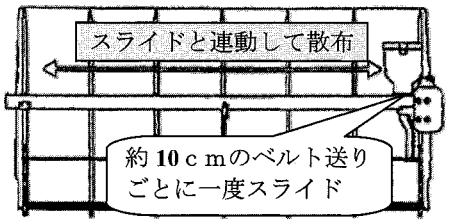
3）初回補給時は、苗の区分けされた位置より下にある苗に育苗箱施用剤を散布してください。

2．田植作業を開始する。



1）セイギョカバー正面の運転スイッチを「入」にします。
「入」の状態で植付部を駆動すると自動的に次の動作で散布します。
「切」の状態では散布装置は動作しません。

2）散布機作動
①苗のせ台のベルトが数回縦送りすると散布装置がスライドして散布。
②散布装置が苗のせ台の反対側まで来ると自動的に停止。
以後は、この①②の繰り返しです。



補足

・散布時には、散布している事を知らせる「ピー」という連続音が鳴ります。
・念のため何回か散布装置が作動した後、散布状態を確認してください。
・散布量が苗の状態によりバラツクことがあります。始めの作業時に育苗箱施用剤の使用量と苗の使用量を確認してください。（基準量は通常、苗 20 枚で育苗箱施用剤 1 kg）

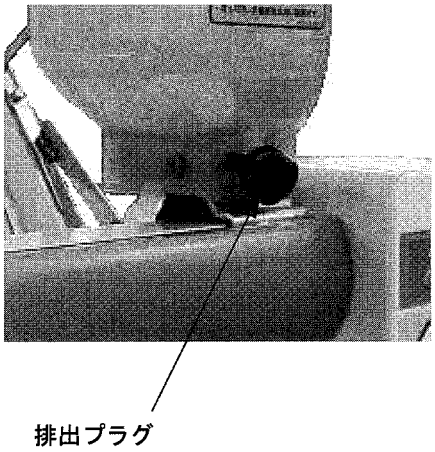
３．田植終了後の作業

１）残り苗は苗開き棒を外側に押して外します。更に、苗ステーを外すと楽に苗を取り出せます。

２）残った苗を圃場に入れる時は、育苗箱施用剤を計量カップを使用し、手で散布してください。

重要

育苗箱施用剤を散布しない残り苗は病気や害虫発生の原因になる場合があります。



３）ホッパに残った育苗箱施用剤は次の手順で全て排出してください。

①排出プラグを抜いて、育苗箱施用剤を排出します。

②排出プラグを差し込み、散布装置を計量動作させ、繰出部の育苗箱施用剤も全て排出します。

重要

完全に排出しないと、繰出部のロールに育苗箱施用剤が固着して次回使用時の散布不良につながります。

植付部の左右バランスの点検・調整要領

☆箱まきちゃんを装着すると植付部のバランスが右下がりになる時があります。
その場合は、次の手順で植付部のバランスの点検・調整をしてください。

特に［こまきちゃん］など、他のアタッチメントと共着する場合は点検して戴いた方が安心です。

左右バンス調整方法

①機械を停止した状態で植付爪を駆動。
※初回苗補給時に植付爪を空回しして苗載台を横送りする方法です。

②苗載台が最左、最右に来た時の、右図のH寸法を確認。

③H寸法の差が大きい時はバネの掛け穴位置で差を確認。

モンロ仕様ではモンロの手動ダイヤルで微調整できます。

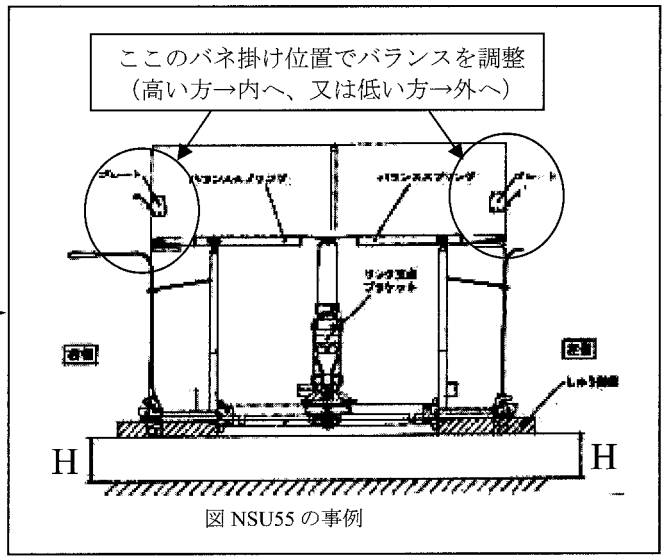


図 NSU55 の事例

田植機の機種によって、少し植付部の構成が異なるので、点検・調整の要領が解りにくい時は、販売店に御確認ください。

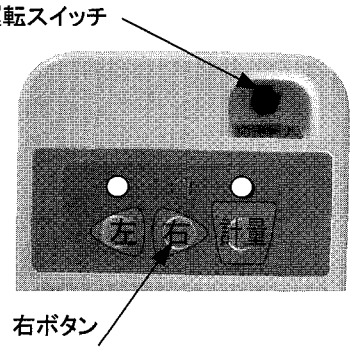
８条の『苗のせ台折畳み』作業の手順

☆この操作内容は８条「ＨＳＹ８０」のみに適応します。
☆田植機を輸送や格納する時に、苗のせ台の左２条を折り畳む作業に対応する操作方法です。
☆田植機を走行する時は必ず散布機のフレームを折畳んでください。

１．散布装置を基準位置にセットする。

散布装置が基準位置（最右）にあるか確認します。基準位置になければ次の手順で散布装置を移動します。

１）運転スイッチを「入」にします。
２）右ボタンを押します。
　右ボタンのランプが点灯し、散布装置が右の端まで動き停止します。
　この位置が、苗のせ台を折り畳む時の基準位置となります。



注意

基準位置にセットせずに、折り畳み作業をすると故障の原因となります。
必ず基準位置にセットしてください。

２．散布機のフレームを折畳む。

1)運転スイッチを「切」にします。
2)主フレーム左側(裏)のアーム(テンション、1)固定用のクランプ(テンション)のフックを外してください。(写真1.)
3)パチンジョウ(アーム)のフックを外してください。(写真2.)
4)フレーム(左側)を折畳みます。(写真3.)

写真1.

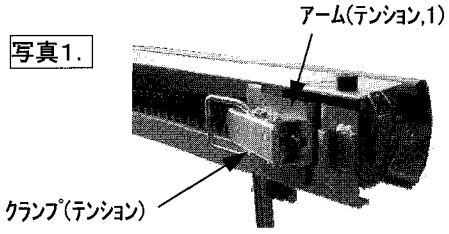


写真2.

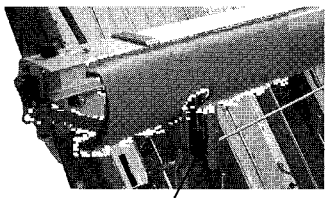
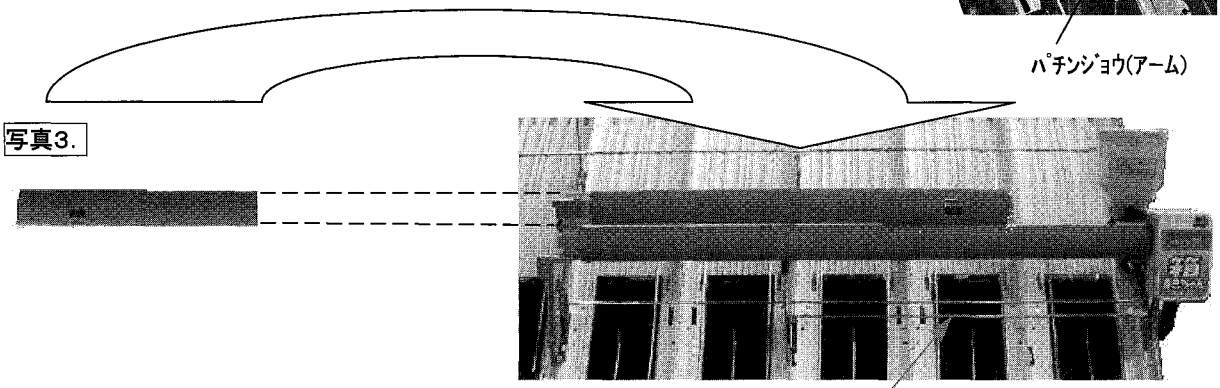
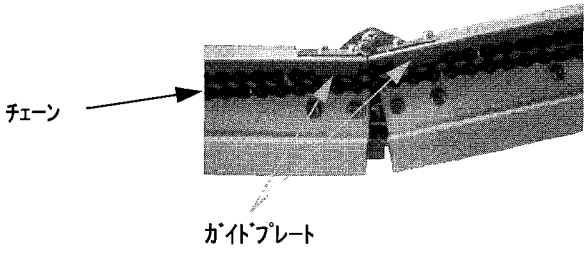


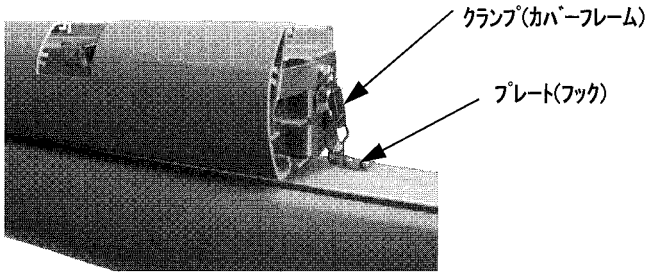
写真3.



重要　チェーンがガイドプレート乗り上げないように、
又、チェーンがガイドプレートの内に入るようにしてください。



5) 畳んだフレーム(左側)をクランプ(カバーフレーム)にてプレート(フック)に固定します。



6) 左側の苗開き棒を右側収納場所に取付けます。(写真3.)

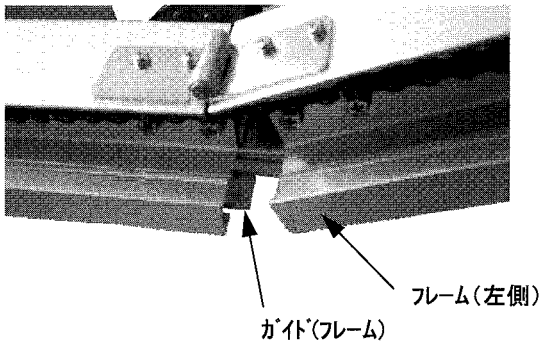
3．田植機本体のラベル、及び取扱説明書を参照して苗のせ台左２条を収納します。

重要

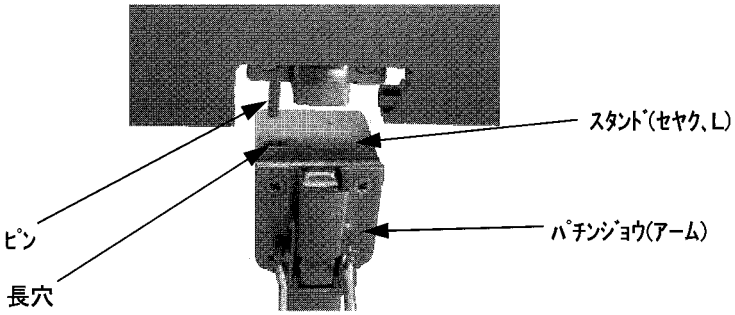
田植作業をする時は、必ず上記で畳んだフレーム(左側)は元に戻し、確実に固定してください

補足

1） ガイド(フレーム)とフレーム(左側)の下部が沿うようにフレームを伸ばしてください。

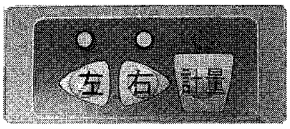
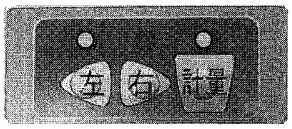
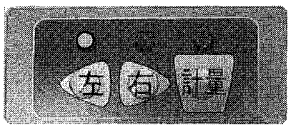
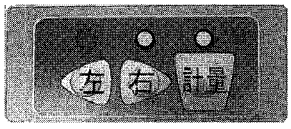
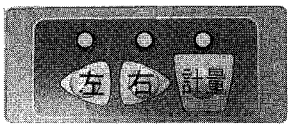
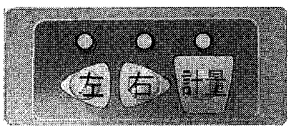


2） パチンジョウ（アーム）のフックを掛ける時はピンがスタンド（セヤク、L）の上面長穴に差し込まれていることを確認してください。



不調と処置

・動かなくなった場合下記のことが考えられます。

原　　因	処　　置	パネル警報表示
・バッテリの電圧低下や、散布装置のスライド抵抗の増加により、横スライドが30秒で端まで到達しない状態になった事により非常停止しています。	・バッテリの電圧低下の場合は、充電やバッテリ交換をしてください。 ・スライドの動きが遅い場合は、スライドへの泥の付着やグリス切れ等を確認し、清掃してください。 関連部品が痛んでいる場合は交換してください。	[エラー1発生] 
・モータが動かない原因で非常停止しています。	・モータがロックした場合は、下記項目を確認、解消してください。 ※繰出部、スライド部への異物の噛み込み ※繰出しロールへの薬剤の固着 ※スライドチェーンの張り状態 上記メンテナンスで直らない時は販売店に点検を依頼してください。	[エラー2発生] 
・フレーム両端の停止位置を検出するリミットスイッチの異常により非常停止しています。	・リミットスイッチが損傷や位置ずれ等を起こし、作動が不安定になっている可能性があります。 販売店に点検を依頼してください。	[エラー3発生] 
[8条型のみ適用] ・スライドフレームが折畳まれている状態と判断している為、非常停止しています。	・スライドフレームを正規の位置にセットして下さい。 ・解決しない場合は、リミットスイッチが損傷や位置ずれ等を起こし、作動が不安定になっている可能性があります。 販売店に点検を依頼してください。	[エラー4発生] 
・電源が箱まきちゃんに来ていない。 ([右][左]ボタンを押しても動かない)	・ヒューズが切れている可能性があります。 P16 を参照して点検、交換してください。 ・ヒューズが切れていない場合はハーネスの接触が不安定になっている可能性があります。 販売店に点検を依頼してください。	[警報表示なし] 
・縦送りセンサの異常により田植機本体の植付部との連動動作ができない。 ([右][左]ボタンを押せば、動く)	・センサが損傷や位置ずれ等を起こし、作動が不安定になっている可能性があります。 販売店に点検を依頼してください。	[警報表示なし] 

【備考】

1) 作業中にセンサ・モータ類の動作状態に異常を感知した時に故障を防止するためのエラー警報を装備しています。
報知ブザー音は「ピー・ピッ・ピー・ピッ……」の反復です。

2) 警報が作動した時は、必ず、計量、及び散布作業を中断し、エラー表示の内容に従い問題を解消してから作業を再開してください。
もし問題が解消しない時は購入された販売店で点検を受けてください。

3) 警報のリセット方法
田植機本体のキースイッチを停止にするとリセットされます。
※問題が解決されていないのに、何度もリセットして動かすのは避けて下さい。

定期点検項目

注意 各部を点検する時は、安全上、必ずエンジンを先に停止してください。

作業前点検項目

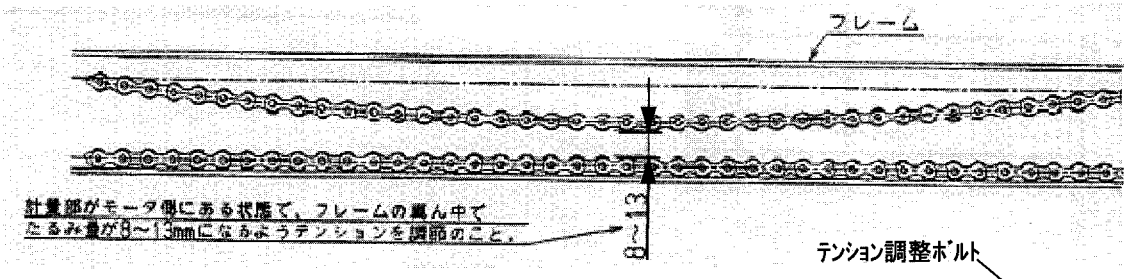
1．田植機の点検
- ●田植機の取扱説明書に従って点検してください。
- ●特にバッテリが弱っている場合は散布時に非常停止が働く原因となりますから必ず充電してから作業を始めてください。

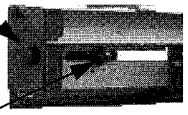
重要 ※バッテリが弱っていると散布機は満足な動きをしません。

2．散布機の点検
- ●散布機各部や、田植機との固定部に緩みや変形等が発生していないか確認をしてください。
- ●田植機のキースイッチをＯＮにすると、散布機の操作ボックスから「ピ」と音がするか確認してください。
- ●ホッパ内、繰出部、散布ノズルが濡れていないか点検してください。
  もし、濡れている場合は充分に乾燥させてください。
  また、万一ホッパ内や繰出部に前回使用時の育苗箱施用剤が残っていた時は全て取出し繰出部に残っている育苗箱施用剤もきれいに取除いてください。

毎日の使用後の手入れ

- ●ホッパ内、及び繰出部に残った育苗箱施用剤は、毎日完全に排出してください。
  ※ホッパ内の育苗箱施用剤を排出後、計量動作で繰出部まで確実に排出して下さい。
- ●洗車時は、ホッパ内部に水が入らないよう充分注意し、また各部品に高圧洗浄機の水が当たらないように注意してください。
- ●ホッパ内、繰出部、散布ノズルが濡れていないか点検してください。
  もし、濡れている場合は充分に乾燥させてください。
- ●散布機の各部に泥が付着している時はきれいに拭き取ってください。
- ●チェーンは、ホッパをモータ側に寄せ、たるみを下図の範囲に調整してください。





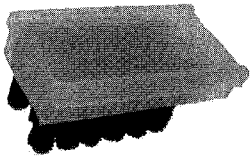
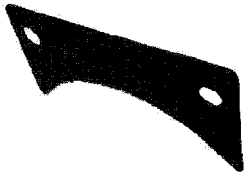
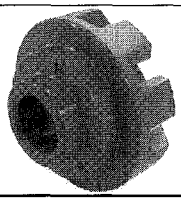
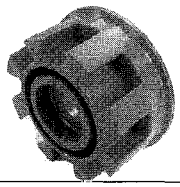
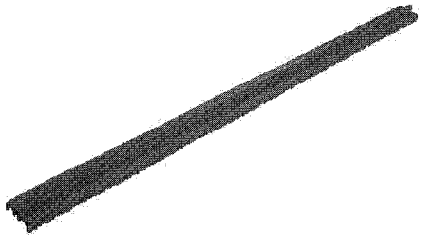
［張り代の調整基準］
中央部でチェーンとチェーンの間が８～１３ｍｍ
※フレーム左側のテンション調節ボルトで調整する。
（固定用ナットを緩めて調整）

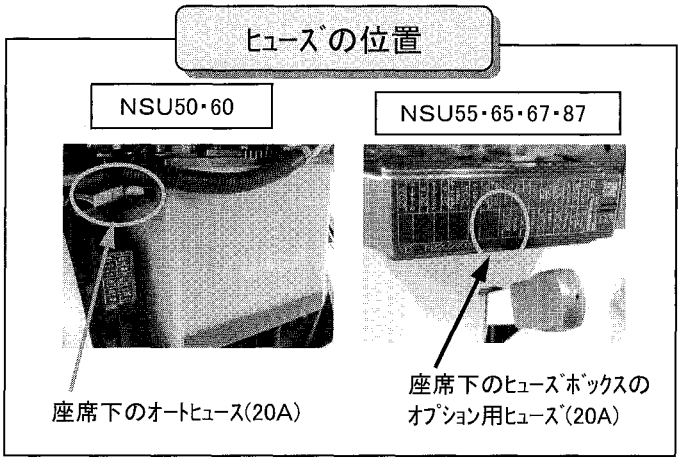
長期格納時

- ●毎日の手入れと同じ項目を行い、充分乾燥させてから保管してください。
- ●チェーン部のグリスが減っている時は、塗布にて補充してください。また、各部に　錆や傷が発生している時は、　修繕して腐食を防ぐよう塗装してください。
- ●田植機の取扱説明書も良く読み、安全注意を守った上で田植機本体も丁寧に点検し保管してください。

主な消耗部品一覧表

消耗部品を下表に示しますので、常に機械を点検して、部品に亀裂、ひび割れ、磨耗などの損傷が認められる場合は、販売店でお買い求めの上、交換してください。

品　番	品　名	部 品 形 状
4F511－9254△	ブラシ	
4F401－9253△	プレート(ガイド)	
4F511－9232△	ロール(ツメ)	
4F511－9218△	ロール(ベアリング)	
4F511－9225△	ローラ(ベース)	
4F401－9313△ 4F501－9313△ 4F601－9313△ 4F511－9313△ 4F811－9313△ 4F811－9314△	レール(チェーン)	



株式会社クボタ

本　　社：		〒556-8601	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
機械札幌事務所：	電(011)662-2121	〒063-0061	北海道札幌市西区西町北16丁目1番1号
機械東日本事務所：	電(048)862-1121	〒338-0832	埼玉県さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
機械西日本事務所：	電(06)6470-5970	〒661-8567	兵庫県尼崎市浜1丁目1番1号
機械福岡事務所：	電(092)606-3161	〒811-0213	福岡県福岡市東区和白丘1丁目7番3号

クボタ機械サービス株式会社

本社営業技術部：	電(072)241-8092	〒590-0823	大阪府堺市堺区石津北町64番地
北海道営業技術推進部：	電(011)662-2121	〒063-0061	北海道札幌市西区西町北16丁目1番1号
秋田営業技術推進部：	電(018)845-1644	〒011-0901	秋田県秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：	電(022)384-5162	〒981-1221	宮城県名取市田高字原182番地の1
東京営業技術推進部：	電(048)862-1588	〒338-0832	埼玉県さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
新潟営業技術推進部：	電(025)285-1263	〒950-0992	新潟県新潟市上所上1丁目14番15号
金沢営業技術推進部：	電(076)275-1121	〒924-0038	石川県白山市下柏野町956-1
名古屋営業技術推進部：	電(0586)24-5111	〒491-0031	愛知県一宮市観音町1番地の1
大阪営業技術推進部：	電(06)6470-5860	〒661-8567	兵庫県尼崎市浜1丁目1番1号
米子営業技術推進部：	電(0859)39-3181	〒689-3547	鳥取県米子市流通町430-12
岡山営業技術推進部：	電(086)279-4511	〒703-8216	岡山県岡山市宍甘275番地
株式会社四国クボタ 営業技術課：	電(087)874-8500	〒769-0102	香川県高松市国分寺町国分字向647-3
福岡営業技術推進部：	電(092)606-3725	〒811-0213	福岡県福岡市東区和白丘1丁目7番3号
熊本営業技術推進部：	電(096)357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1

株式会社クボタアグリ東日本

東北系統推進部：	電(018)845-1601	〒011-0901	秋田県秋田市寺内字大小路207-54
関東・甲信越系統推進部：	電(048)862-1124	〒338-0832	埼玉県さいたま市桜区西堀5丁目2番36号

株式会社クボタアグリ西日本

中部・近畿系統推進部：	電(06)6470-5850	〒661-8567	兵庫県尼崎市浜1丁目1番1号
株式会社四国クボタ 系統推進部：	電(087)874-8500	〒769-0102	香川県高松市国分寺町国分字向647-3

株式会社クボタアグリ九州

九州系統事業推進部：	電(092)606-3166	〒811-0213	福岡県福岡市東区和白丘1丁目7番3号

株式会社クボタ　部品事業部

西日本総合部品センター：	電(072)245-8601	〒592-8331	大阪府堺市西区築港新町3丁8番
東日本総合部品センター：	電(0297)52-0510	〒300-2402	茨城県つくばみらい市坂野新田10
北海道部品センター：	電(011)376-2335	〒061-1274	北海道北広島市大曲工業団地3丁目1番地
九州部品センター：	電(092)606-3256	〒811-0213	福岡県福岡市東区和白丘1丁目7番3号

2007年3月発行　　品番　4F511-9481-2